

市民活動センターだより

12月

平成29年

vol.21



市民活動センター

問い合わせ

○ながはま市民活動センター
長浜市役所〈本庁舎3階〉
平日 8時30分～17時15分
〒526-8501 八幡東町632

○北部サテライトセンター
きのもと交遊館
水・日曜日 9時～21時
〒529-0425 木之本町木之本1118

☎ 65-6525

✉ katsudou@city.nagahama.lg.jp

市民活動に関する事務作業や打ち合わせなどにご利用ください!

TOPIC | 今月の情報コーナー

高校生集まれ! 長浜の未来を一緒に創りだそう

勉強や部活に励む高校生は、自分たちの住む地域をどのように思っているのでしょうか。卒業後に長浜を離れてしまう場合は特に、地域について考える機会が少ないのが現状です。そんな若い世代が積極的に地域のことを考えていく機会として、ながはま市民活動センターの活性化を考える講座を開きます。講座を通じて、アイデアの出し方や思考の展開法についても学べます。長浜の未来をともに考えてみましょう。

【と き】12月26日(火)、
1月4日(木)(全2回)
13時～16時

【ところ】市役所本庁舎等
【対象】市内在住・在学の高校生
【参加費】無料
【定員】10人(先着順)
【申込み】12月22日(金)までに電話で下記まで。

問・申 市民活動センター

つくるつなげるつづけるセミナー 「コミュニティデザイン」を学ぼう

地域で仲間を増やしたい、活動を広げていきたいと思います。コミュニティ

デザインとは、新たな人のつながりをつくり、いろんな人が参加したくなるような場を運営していくことです。今回のセミナーの講師に迎える渡辺直樹氏は、コミュニティデザインの手法を取り入れまちづくり事業に取り組むstudio-Lに所属。主に関西でのにぎわい創出や地域福祉などのまちづくり事業に関わっています。具体的な事例を学び、長浜での暮らしがもっと楽しくなる方法を、一緒に考えていきましょう。

【と き】1月27日(土)
10時～12時

【ところ】神照まちづくりセンター(神照町)
【対象】まちづくりに関心のある人
【参加費】無料
【定員】30人(先着順)
【内容】渡辺直樹氏によるレクチャーと意見交換

【申込み】1月24日(水)までに電話で下記まで。

問・申 市民活動センター

活動に活かそう助成金

平成30年度分の各種助成金情報をお知らせします。

■未来ファンドおうみ

(主催: 淡海ネットワークセンター)
県下のNPOや市民活動団体を支援する同センターが、個人や企業、団体等からの寄付を基金にし、地域課

題解決のための活動に対して、全9種の助成事業を展開。助成は10～30万円。応募受付は1月16日(火)17時までに郵送(必着)または直接下記まで。

問・申 淡海ネットワークセンター
〒520-0801
大津市におの浜1丁目1-20
(☎077-524-8440)

■夏原グラント(主催: 平和堂財団)
琵琶湖およびその流域において、市民活動団体や地域づくり協議会が取り組む環境保全活動が対象で、上限50万円。応募受付は1月31日(水)までに郵送(当日消印有効)で下記まで。

問・申 しがNPOセンター
〒523-0893
近江八幡市桜宮町207-3
K&Sビル 3F
(☎0748-34-3033)

第6回こほくイルミの広場

同地域の冬の恒例になったイベント。手づくりのイルミネーションが彩ります。

【と き】12月16日(土)～1月14日(日)
17時～21時(雨天積雪時も点灯)

【ところ】湖北支所西側公園(湖北町速水)
【点灯式】12月16日(土) 17時～
豚汁ふるまい(700食)など

問 こほく地域づくり協議会
(湖北まちづくりセンター内)
(☎78-1287)

こんな活動してます!

市内の北中学校、長浜北小学校、神照小学校での秋の恒例行事が新米の炊き立て給食。クラスごとに配膳される釜のご飯は毎年完食の人気ぶりです。3校あわせて約2,200人分、およそ200kgの米を使って炊き出しを行うのが同委員会です。

結成は平成20年。当時北中では「学校だけではなく、地域全体で子どもを育てていきたい」との思いをもっており、それを受けた歴代PTA役員が「学校の応援団」として始めたのが新米給食の取り組みでした。PTA事業ではなく地域として社会貢献をめざすなかで、各小学校区にも取り組みを広げていきました。

「子どもがお世話になったお返しを」と卒業生保護者が次第に増え、現在メンバーは約50人。お米は、農業を営むメンバーが作ったものを、地元農協を通じて提供。給食当日は各校の家庭科室等にてぎやかに準備を進めます。

「子どもたちに喜んでもらって、大人も楽しむ」のが委員会のモットー。そんな大人の後ろ姿を見ていた子どもらが後年仲間に加わってくれることが「夢」といいます。

夢プロジェクト委員会



▲「夢プロごはん」と名づけた新米給食当日は、地域の民生委員や日赤奉仕団、更生保護女性会、現役PTA役員も協力してご飯を炊きあげます。